

新規事業の今後の取組について

(1) 食を通じて健康な体をつくる

1-1 ライフスタイルに即したバランスのとれた食生活の実践

エ 講演会、情報発信、料理教室など、大学・学生等と連携しつつ、若い世代をターゲットとした新たな食育の場や機会を創出（検討）していきます。

○令和4年度は名古屋学芸大学生と連携、令和5年度は長久手そば打ち愛好会、愛知淑徳大学生と連携できたが、次年度以降どのような取組を実施するか。

カ 自ら料理をつくって楽しむ高齢者を増やすため、活動団体等と協力して、高齢者向けの料理教室などの活動を普及・支援していきます。料理方法や食材に関する豆知識など、高齢者の知恵やノウハウを次世代に伝承していくための情報発信やイベント開催に取り組みます。高齢者向けの食育の機会を増やしていけるよう、民間の医療機関・介護事業所などにも協力を呼びかけます。

○令和5年度は、長久手そば打ち愛好会によるそば打ちを愛知淑徳大学生が体験し、日本文化の伝承ともなるイベントを実施する。

長久手市社会福祉協議会では、健康維持・外出・地域活動への参加を目的として一人暮らしの男性を中心に、レクリエーション協会の運営による料理教室を開催しているが、みどりの推進課として支援するにはどんな方法があるか？

1-3 食の安全に関する理解促進

ア 食品の安全性や栄養成分、食物アレルギーなどの正しい情報を広報・リーフレット・ホームページなどを通じて提供していきます。食を提供する民間事業者にも協力を呼びかけ、分かりやすい情報提供を促します。

○令和4、5年度の食育イベントでは旬の野菜を使ったレシピを配布し情報発信を行った。食品の安全性に興味を持ち、正しい知識を身につけ、自らの判断で食を選択できるようになるための分かりやすい情報提供を行うには、次年度以降どのような取組が考えられるか。

(2) 食を通じて豊かな心を育む

2-1 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進

ア 子どもの孤食は、コミュニケーション不足や栄養の偏りなどの原因となったり、高齢者の孤食は、低栄養やうつ病などの原因となったりするといわれています。孤食が引き起こす悪影響について情報提供するとともに、家族や友人、地域の人とともに食事をする共食の大切さを啓発します。「新しい生活様式」に合わせて、在宅時間を活用して食を楽しむための情報提供を行います。

○例年、定例的な食育月間等のPR方法にとどまっているため、他にどのような情報提供の手段が考えられるか。

イ 事業者やNPO等と連携・協力するなどして、高齢者同士や地域の子どもたちとの共食の場づくりを支援します。

○高齢者同士の共食の場づくり、地域の子どもたちとの共食の場づくりとして、どのような方法、支援が考えられるか。

2-2 体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進

イ あぐりん村において、生産者と消費者の交流を深めるイベントを開催します。料理教室や料理コンテストなどのイベントを開催し、食に関する知識や調理技術の習得につながる機会を提供していきます。

○生産者と消費者の交流を深めるイベントとして、令和5度はあぐりん村で生産者による朝市を開催したが、次年度以降どのような取組を実施するか。

(3) 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

3-2 農業への理解促進と地元農産物の消費拡大

ア 農業が地域に果たす多面的な役割について PR しつつ、地域で生産される農産物の利用促進に向けた啓発、情報発信を行っていきます。また、旬の農産物やその料理方法などについても学習できるように情報発信を工夫していきます。消費者に地域の生産者、農産物についての理解をより深めてもらうために、消費者と生産者との交流の機会を提供していきます。こうした交流を進める中から、消費者と生産者の想いに添った商品、サービスの開発・提供を促していきます。

○令和5年度は、地域で生産される農産物の利用促進に向けた啓発、情報発信として、真菜そば試食会と野菜マルシェを実施する。継続的に伝統野菜である真菜を PR するには、次年度以降どんな取組、情報発信の手段があるか。

(4) 食育を支える取組を推進する

4-1 食育にかかる人材の育成と活動の充実

ア 子ども食堂・高齢者食堂や生産者との交流イベントなど、市民が主体となって取り組む活動が活性化されるように、活動を支援する人材（ボランティア等）の育成、環境整備、情報の共有化を支援します。

○食育活動に取り組んでいる既存のボランティア団体等を発掘するために、昨年度は広報よる呼びかけを試みたが、担当課より承諾されず掲載不可となったため、食育推進部会等で呼びかけをし情報収集、情報の共有化を継続して行います。